

ならやまトーク・投句 新緑編

とりどりのコロナマスクと紫陽花と 青木幸子

(いろいろの洒落マスクが目を楽しませる。「紫陽花」の語感が響き合う)

親の声拙く真似てカラスの子

ハ木順一

(親は悪声のカラス、雛鳥くらいは可愛い声で啼いてほしいのだが)

子等待つや泥田の蛙首もたげ

ハ木順一

(佐保台小の田植は中止。トノサマガエルだけが首を長くして待つ)

残り鴨ならやま池を別宅に

鈴木末一

(ならやま西池、カルガモの定宿になったか。「残り鴨」は夏の季語)

石叩き競歩す梅雨の舗装路

鈴木末一

(舗装の終わった自転車道路、梅雨空に競歩するお馴染の鶴鴫たち)

コロナ禍のヤマなお見え五月鬱

岡田安弘

(ならやまも自粛延長。再開に向け模索が続く。しばらくの辛抱を)

入社孫の門出はテレワーク

岡田安弘

(コロナ禍で初仕事は在宅勤務。上司や同期の顔もうろ覚えと嘆く)

ならやまの里華やげり柿若葉

阿部和生

(実りの森、緑の中にひときわ美しい柿の若葉、まさに色の饗宴だ)

投句歓迎 古川まで

メタセコイア芽吹きて精華大通

阿部和生

(学研都市名物のメタセコイア並木、いま芽吹いた新緑が地平まで)

春の水小魚の群れて光粒

中井弘

(水の温んだ小川に小魚の群れ。キラキラと光の粒が動いて見える)

静寂や令和二年の散る桜

中井弘

(御岳教大和本宮、コロナ禍に閑散とした中に今年の桜が散っていく)

朝刊の折り込みチラシ減る四月

藤原 勲

(外出自粛、イベント、パーティの中止……。四月は我慢の月だったか)

払へども居眠り顔に五月蠅かな

藤原 勲

(コロナでならやまの活動は休止。つい体がなまって。五月蠅さばえ)

紫陽花の雨をまとひて艶めけり

藤原 勲

(梅雨、ならやまの紫陽花が美しい。十数年の地道な努力の精華、ただ敬服)

コロナ禍に偕老同穴四月尽く

古川祐司

(買い物は三日に一度。老妻と二人暮らしにならやまの筍が幅を利かす)

真澄なる空に青梅の連珠かな

古川祐司

(今年の南高梅は豊作。青空に大粒の青梅が連珠のように連なっている)